令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査　8 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 8 年 8 月 12 日に稚魚調査を実施した。前日の夜に台風 15 号が通過しているが、調査実施中の天気は曇りのち晴であった。しかし、森ヶ崎の鼻と葛西人工渚での調査の間にゲリラ豪雨が発生した。気温は 24.8～29.2℃、調査地点は北東の風、風速 3.2～5.0m/s であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 46 分、満潮は 17 時 36 分であった（気象庁のデータ）。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

カライワシ、ギマといった南方系の魚類の幼魚が出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	8:37-10:10	10:43-12:25	13:10-15:17
水温(℃)	26.0	26.6	31.0
塩分(-)	23.3	6.9	12.2
透視度(cm)	53.0	27.0	23.0
DO(mg/L)	6.0	6.1	5.6
DO飽和度(%)	85.0	78.8	80.2
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.9	6.8	8.0
水の臭気	微海藻臭	微下水臭	無臭
備考			

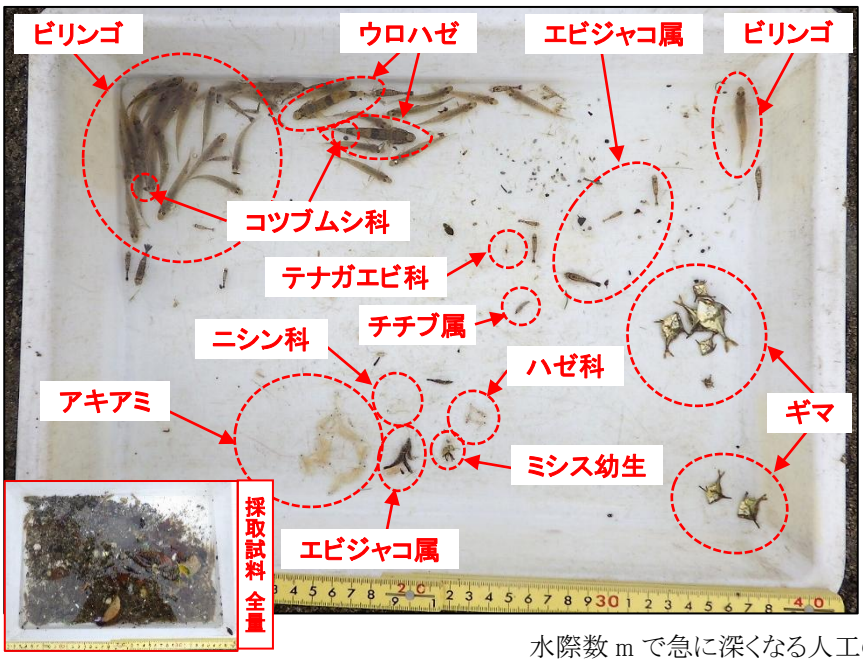
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種（多い順[注]）	ビリンゴ(c)	ビリンゴ(+)	ボラ(+)
	ギマ(+)	ギマ(+)	マハゼ(+)
	ニシン科(+)	ツマグロスジハゼ(r)	アシシロハゼ(+)
	ハゼ科(r)	マハゼ(r)	エドハゼ(r)
	チチブ属(r)	ヒモハゼ(r)	カライワシ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	シラタエビ(+)	ニホンイサザアミ(G)
	ミシス幼生(m)	テナガエビ科(+)	シラタエビ(c)
	コツブムシ科(c)	ユスリカ幼虫(r)	クロイサザアミ(r)
備考	他にウロハゼ、エビジャコ属、アキアミ、テナガエビ科等が採集された。	他にミシス幼生、ムロミスナウミナナフシ等が採集された。	他にクルマエビ上科等が採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料



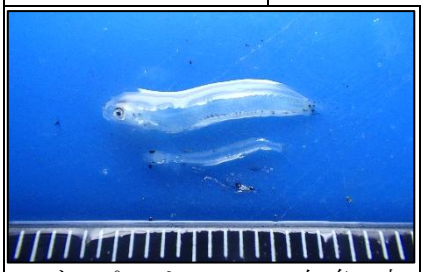




水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

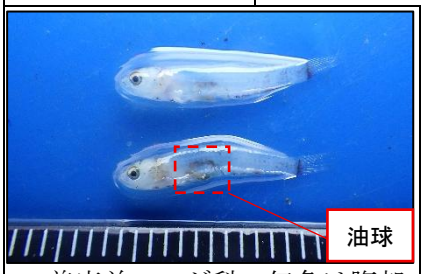
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

ニシン科（仔魚）



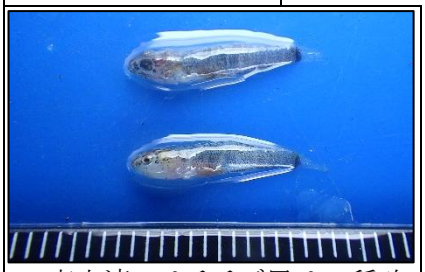
サッパ又はコノシロの仔魚。内湾や河口域に生息する。いずれも産卵期は春から初夏だが、サッパの方がやや遅い。ふ化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。

ハゼ科（仔魚）



着底前のハゼ科の仔魚は腹部に浮力調整のための油球がある。

チチブ属（仔魚）



東京湾ではチチブ属は 4 種確認されている（チチブ、ヌマチチブ、アカオビシマハゼ、シモフリシマハゼ）。成魚は体側の縦縞や頭部の白斑の粗密等で区別されるが、稚魚は未発達のため見分けが難しい。春から夏に干潟域等で大量の仔魚が浮遊生活を送る。

ビリンゴ



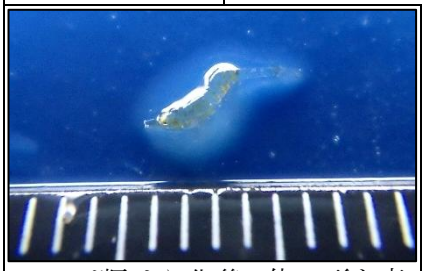
マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。産卵期は早春。

ウロハゼ



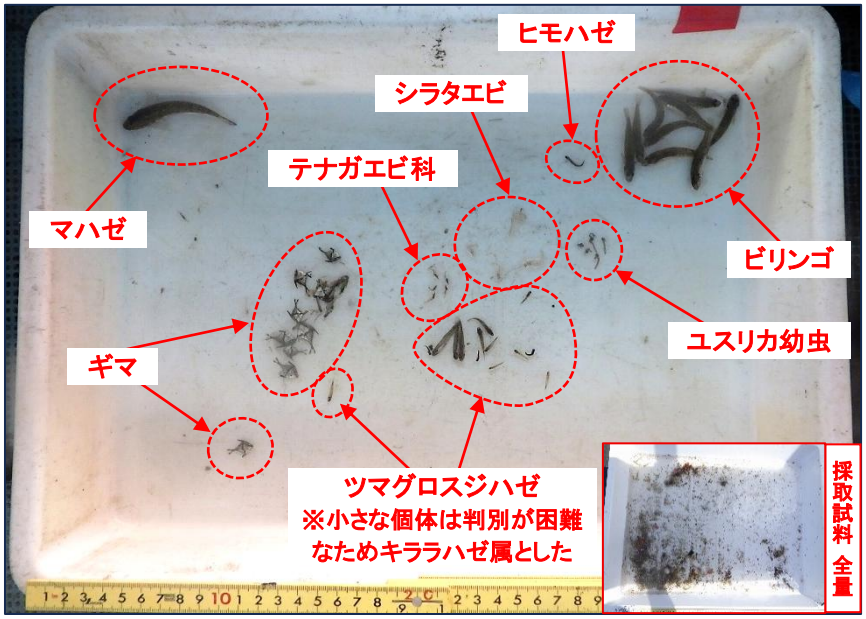
全長 20 ㎝を超える大型のハゼ類。下顎は上顎より突出し、体側にはっきりとした黒斑が並ぶ。河口域の砂泥底に生息する。岩や障害物の下等、隠れるところの多い場所を好む。産卵期は夏。

ミシス幼生



エビ類はふ化後、体の形を変える変態を行って成長する。ミシス幼生はその幼生期の一つ。アミ類に似た姿で活発に泳ぐ。その後幾度か脱皮し、成体と同じ体形の稚エビとなる。

森ヶ崎の鼻　採取試料



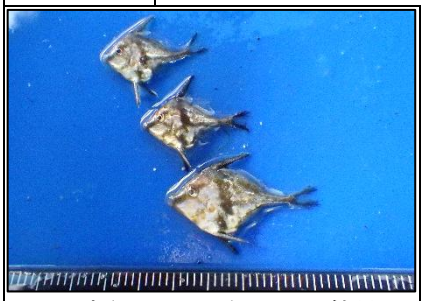




羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

ギマ



フグやカワハギに近い仲間。腹にあるトゲは硬く鋭いため注意が必要。干潟域等の浅所で、夏から秋にかけ1～5cmほどの幼魚が出現する。

ヒモハゼ



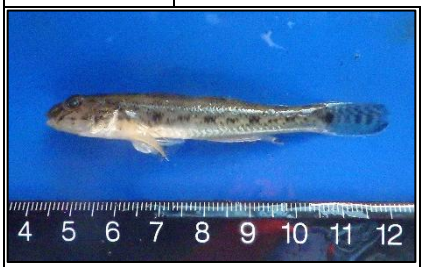
体はミミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。成魚で全長4cmほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。産卵期は初夏。

ツマグロスジハゼ



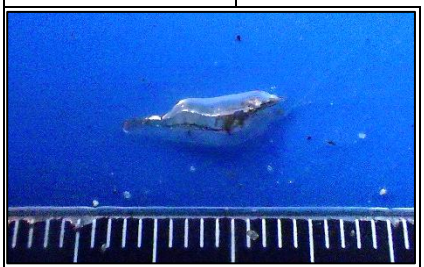
体側に暗色の縦縞が走り、青白く輝く点が散在する。本調査では初記録となるが、かつては本種とモヨウハゼ、スジハゼは同種で、近年3種に分けられたことから、過去にスジハゼまたはキララハゼ属とされた個体に本種が含まれていた可能性がある。

マハゼ



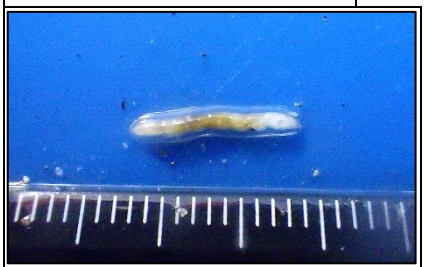
河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

テナガエビ科



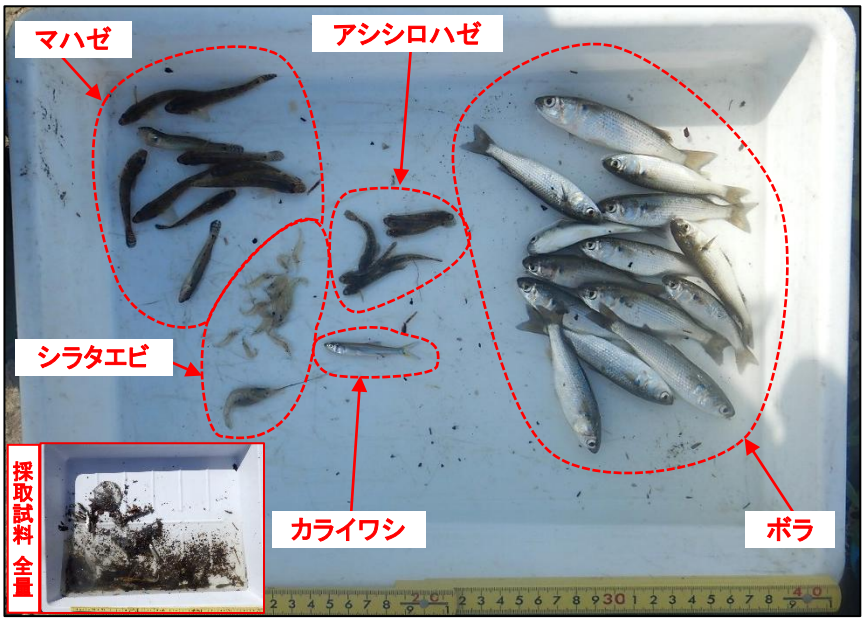
河川の淡水から汽水域に生息する。産卵期は5月から9月で、卵は雌に抱えられて過ごし、ゾエア幼生としてふ化する。その後脱皮を繰り返し稚エビとなる。成長するにつれて雄はハサミ脚(第2歩脚)が長くなる。

ムロミスナウミナナフシ



体長2cmほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

葛西人工渚　採取試料



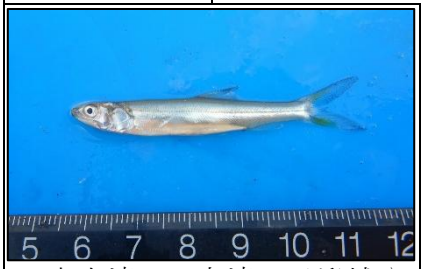




東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

カライワシ



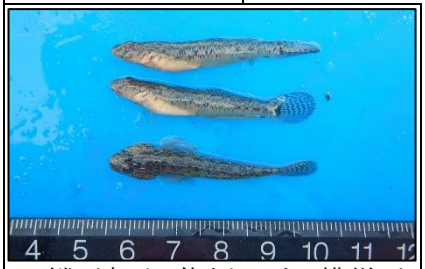
東京湾では内湾の干潟域や外湾の砂浜海岸で体長 3cm ほどの稚魚が 7 月から 9 月に見られることが多い。成長すると体長 75cm ほどになる。

エドハゼ



湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家とするほか、早春には産卵場所として利用している。

アシシロハゼ



鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

マハゼ



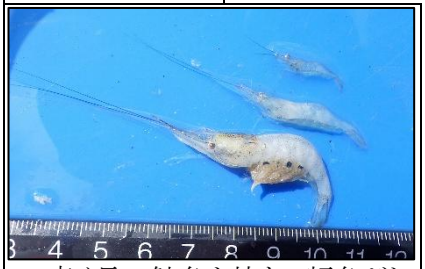
※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

ボラ



東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

シラタエビ



青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

今回、抱卵個体が採集された。